

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第 042 号

2018 年 7 月 20 日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

第24回 全国の集い in Osaka 2018 “演題登録のご案内”

ご注意 今年から応募方法が変わりました。

この号が皆様のお手元に届く頃には既に演題募集の締切りの直前と
思います。既に会員の皆様にはお届けしておりますが、今年度からそ
の手順が大きく変わったこともあり改めてご案内させていただきます。
それを含め締め切りも延長させていただきました。

実践交流会は当会結成当初から「現場の声をもって交流する」とい
う他の学会、団体にはない特徴を有しています。登録方法の変更に伴い
会員の皆様方におきましてはご負担をお掛けしますが、是非、「変わ
りなき」ご応募をお願い申し上げます。

演題の申し込みは下記の要領で e-mail にて受け付け
致します。

なお、採否は e-mail および大会 HP にて発表し、
抄録およびスライドの投稿は当ネットワークの会員
交流用の Web 会議室（株式会社ワイズマンによる
MeLL+community の会議室を利用）を用いて行いま
す。

Web 会議室の ID およびパスワード、利用方法のご
案内は追ってお知らせ致します。

<応募資格>

- ・ 当会会員（賛助会員は除く）
入会に関しては当会 HP 入会案内をご参照ください。

<応募可能演題数>

- ・ 医師・法人会員：5 演題
- ・ 事業所会員・市民団体会員：3 演題
- ・ 市民会員：1 演題

<応募カテゴリー>

1. 在宅生活の継続
2. 訪問サービス・通所サービス
3. 緩和ケアと看取り
4. 人材育成・教育
5. 地域で支える認知症ケア
6. 口腔ケアと栄養管理
7. 地域包括ケア
8. 新しい試み
9. 薬と生活

- ・ 1 演題あたり発表 7 分、質疑応答 3 分を予定して
おりますが、カテゴリー毎の演題数などにより座長が調
整する場合があります。
- ・ 演題数や内容により、発表カテゴリーの変更をお願
いする場合があります。

各カテゴリーの趣旨は p2 ～ p3 の通りです。



申し込み専用メールアドレス： jissen@hachifc.jp

お問い合わせ：0178-72-3301（はちのへファミリークリニック 企画連携室）

<演題募集期間延長のお知らせ>

平成 30 年 7 月 15 日→平成 30 年 7 月 31 日



実践交流会 各カテ

理事座長の皆様から頂いた、各カテゴリーの主旨を掲載致します。
登録時のカテゴリー選択の一助になれば幸いです。

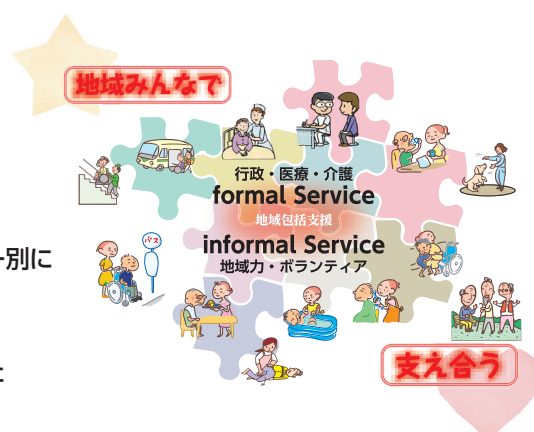
応募と並行して…

この実践交流会をより有益なものにすべく、昨年と同様カテゴリー別に

○理事、大阪両座長様間

○発表される方と座長様間

のメーリングリストを設定させていただきます。大会本部を交えた「事前交流、連絡等」にお役立ていただければ幸いです。



1. 在宅生活の継続

理事座長：小倉 和也（はちのへファミリークリニック）

大阪座長：山寺 慎一（医療法人菜の花会 菜の花診療所）

在宅医療・介護連携推進事業が自治体事業となった平成 30 年度において、在宅生活を継続するためのそれぞれの地域ごとの地域包括ケアシステムの構築が本格化しています。これまでの取り組みを継続しつつ、地域づくりと地域全体の事業所間連携・多職種連携の中での役割を意識した新たな取り組みが求められています。

この交流会が各地の取り組みを共有し高め合う機会となることを願っています。また、実践交流会での交流を一度きりではない継続した交流と情報交換につなげるため、今大会から導入された Web 会議室機能を用いて、大会終了後も情報交換を継続していきたいと思います。

2. 訪問サービス・通所サービス

理事座長：福田 善晴（医療法人大和会）

大阪座長：山田 登喜子（特定非営利活動法人 ゆうらいふ）

「訪問サービス」「通所サービス」は、介護が必要となった時に、在宅生活を継続するため最も必要とされているサービスです。ですが介護保険制度の改定に一番振り回されているサービスではないでしょうか。そんな中、現場の皆様は、ご利用者の在宅生活継続のために、さまざまな困難に立ち向かいつつ、日々笑顔でより良いサービスの提供を実践されていることでしょう。

このカテゴリーでは、そのような現場での実践の中から得られたものや、困難症例など、成功・失敗を問わず募集いたします。

利用者の笑顔を引き出すためには、介護する側の笑顔も必要です。明日からも楽しく笑顔で現場に出るためにこの実践交流会で語り合ひましょう。みなさんのエントリーをお待ちしています。

3. 緩和ケアと看取り

理事座長：三嶋 泰之（医療法人社団佐倉の風）

大阪座長：西村 和美（菜の花訪問看護ステーション）

「緩和ケア」「看取り」この言葉に対して、皆さんはどのような印象をお持ちでしょうか。在宅ケアを支えている皆さんにとって、マイナスイメージはほとんどないと思います。しかし、病気を抱えながら必死に過ごしている多くの人にとっては「もうおしまいだ」などと悲観的な思いを抱く言葉でしょう。そうした思いを否定することはできませんが、こんなふうで過ごしていきたい、こんな感じで最期を迎えたい、という願いは誰もが持っているはずですので、それを叶えるべく少しでも前を向いていく気持ちになれる皆さんの経験談を紹介していただきたいと思います。

緩和ケアを受ける本人が主役であることは当然ですが、家族などそれを見守る側も主役級存在です。また、癌だけが緩和ケアの対象ではありません。本人も家族なども、もちろん独居でも、どんな病気でも日々穏やかに過ごしていけることを改めて皆さんと考えていきます。

緩和ケアの延長に看取りが存在しますが、それで完結ではないと思います。看取る側の日々はそれから続きます。グリーフケアなど看取った後の皆さんの取り組みの報告もお待ちしています。

最期を迎えるまでの時間を嬉しさいっぱいで過ごす人などいません。そのような中でもあたたかくほっとできる瞬間をつくれるといいですね。この実践交流会のカテゴリーでは、そうした報告を聞いて自分のところに持ち帰り次につなげていく小さなきっかけとなる場を目指したいと思っています。

4. 人材育成・教育

理事座長：桑原 由次

大阪座長：野瀬 博子（社会福祉法人あさか会）

18 年度の介護報酬改定は「重度者対応」「自立支援・重度化防止」が大きな柱となっています。柱を支えるために求められている軸は「多職種連携」です。「連携」には組織内をまとめ、外部と繋がる「マネジメント」が必要とされてきます。介護現場の労働力は質も量も足りません。しかし、日常の業務遂行力に加え「マネジメント力」を意識し、人材育成・教育に注力することが必要と考えます。皆さんの掲げる理念の実現と現実への対応のために知恵を集めましょう。



ゴリー主旨について

5. 地域で支える認知症ケア

理事座長：村山 善紀（医療法人 村山内科）

大阪座長：笹山 志帆子（訪問看護ステーション ハートフリーやすらぎ）

日本は 2025 年には団塊の世代が 75 歳以上となり、認知症高齢者は 700 万人に達すると推測されています。人生 100 年時代に向けて、認知症になっても安心して住み慣れた地域で暮らせる社会の仕組み作りや、認知症の人がお世話されるだけの存在ではなくその人らしく活躍できるようなケアが問い直され、新しい試みもされてきています。

認知症の諸症状は脳の病気によるものだけでなく日常生活の中にも原因があることが分かり、薬物療法やケアの技法の見直しも進んでいます。ICT や AI の活用も試みられています。また、介護の現場には市民、行政、教育、民間企業など地域を巻き込んだ社会全体のネットワークも必要です。

認知症の人を多職種間で考え協働して支えていくと共に、家族や近所さんも関わり互いに助け合い、介護の受け手も支え手も元気になる社会を目指していきましょう。

認知症ケアの最先端は、現場の実践に中にあります。皆様の現場での取り組みに関する演題を募集します。

6. 口腔ケアと栄養管理

理事座長：大川 延也（大川歯科医院）

大阪座長：渡邊 充春（わたなべ往診歯科）

これまでの 3 年間で各々の地域特性に応じた地域包括ケアシステムづくりをしてきたことと思います。でもまだまだ未完成。病院から出された患者さんたちは何らかの障害をかかえながら在宅で生活復帰しなければならず、在宅で生活するということは、まず第一に「食べること」「栄養を摂ること」を考えなければなりません。

そこでこのカテゴリーでは“生きるためだけの栄養”ではなく、“元気になるための栄養・口から食べる”を考えるために病院医師、地域医師の立場、口の専門家の歯科医師の立場、そして現場で療養者を支える多くの多職種の立場、そして地域行政の立場、それぞれの立場から実践で見た問題点を発表していただき、みんなで考えていきましょう。在宅で元気になるために！

7. 地域包括ケア

理事座長：金田 弘子（医療法人社団もりもと）

大阪座長：草野 孝文（医療法人アエバ会 アエバ外科）

「地域包括ケア」は地域それぞれの対応が求められておりますが「まだまだ手探り」の状態が現状です。住み慣れた地域でその人らしい生活をできるだけ長く活動的な状態で維持していくためにも、地域包括ケアを推進していく必要があります。そのためには、ネットワークや連携する環境の整備も必要ですが、まずはその人が元気であった直前の生活状況を知り、虚弱の高齢者の元気を取り戻す必要があります。高齢者が元気を取り戻すにはその人を知り、人との交わりや役割を通じて、地域活動への参加を促進することが重要です。また、高齢者の重度化予防・自立支援の実践力を身につけるために多職種で関わりをもつことも重要です。

8. 新しい試み

理事座長：吉永 隆行（株式会社トーヨー・プリント社）

大阪座長：長田 栄一（長田医院）

「新しい試み」には「事例そのもの」ばかりでなく、そこに含まれている様々な「知恵」に気づくことにより、また新たな「試み」に繋がる可能性を持っています。勿論、どのカテゴリーにもそれぞれそのような可能性は持っていますがこのカテゴリーの交流会において、様々な事例の発表を通じてその「個々の試み」を伝えるばかりでなく、全体の発表を通じてそれぞれの「知恵」を感じ、持ち帰った皆様の地元の活動に少しでも寄与出来る・・・そんな場になりたいと思っています。

些細な内容でも大きなヒントにつながります。失敗例は成功例よりも多くの知恵が隠されています。「地域包括ケア」を含め多くの現実の流れの中で、いろんな「気付き」を参加された皆様方が持って帰れるような交流会にしたいと考えております。皆様の発表をお待ちしております。

9. 薬と生活

理事座長：萩田 均司（有限会社メディフェニックスコーポレーション）

在宅医療を必要とする患者は、その殆どが薬を服用・使用している。高齢者は疾病を多く抱え、多科受診するうちに薬の種類が膨らみポリファーマシー状態に陥っている事にしばしば遭遇する。一方小児の在宅医療では、薬の調整が微妙で大変複雑である。在宅訪問する薬剤師は、まずは薬の整理から始まり、剤型の工夫、一包化やカレンダー等ツールを駆使して患者や家族等に分かり易く調剤する。しかし、最大の目標は、患者の疾病の治療と QOL の向上である。そこで、本交流会では、薬を題材とした調剤や管理の工夫、多職種連携で実践できた様々な症例、在宅医療や介護に携わる多職種や介護にあたる家族の薬に関する困った事やさらにはポリファーマシーへの対策などを学び議論し、在宅医療がより発展するためにはどうしたら良いかを考えていきたいと思います。

実践交流会 発表用ファイルの登録方法について

実践交流会の発表ファイルの登録方法が今年は UMIN を使った従来のやり方から変更になりました。新しい登録方法は、会員の皆様のお手元に届いていると思います。

しかし、これまでとの違いに戸惑っている方もおられるのでは無いかと思います。

そこで、MeLL+community を利用した Web 会議室の計画を進めていらっしゃる小倉副会長より説明の文章を頂いています。

登録時のご参考にご利用下さい。

このたび当会では、会員間の情報共有および交流を活性化するため、SNS 形式でお互いに書き込むことで情報共有を行う Web 会議室を開設運用することとなりました。

これは株式会社ワイズマンが提供する地域連携システム「MeLL+community」の情報共有機能の一部である会議室機能のみを当会の会員向けに提供していただき、運用を株式会社デュナミスへ委託する形で実現しました。

機能としては、図 1 のような画面からログインすることにより、SNS 形式で図 2 のようにお互いが情報を投稿することが可能になります。閲覧した際にご自分が確認したことを投稿者や他の会員に示す（Facebook などの「いいね！」にあたる）機能として「確認」をクリックすることにより、ご自分の名前で確認したことを示すことも可能です。

また、コメントを投稿する際に、PDF や Word などのファイルや写真もコメント欄に添付することができるほか、「関連文書」にまとめて掲載することも可能です。イベントのお知らせや研修会の資料の共有などにお役立ていただければと思います。

全国の集いの準備活動および大会における成果の共有、日常における情報共有などにも活用していきたいと考えております。

後日、全会員に ID・パスワードを送付させていただきますので、同封の「Web 会議室使い方ガイド」をご参照の上、ご利用いただけますようお願い致します。

図 1：MeLL+ ログイン画面

ログイン画面

図 2：Web 会議室会員の部屋

リレー寄稿

前回の鹿児島県・徳永 正義様からのバトンは鹿児島県奄美市の徳田 英弘様に渡されました。
 ●「ネリヤカナヤ」(海のかなた、山のかなた)は、奄美のシマに幸(さち)をもたらす理想郷です。
 ここから「ネリヤ」をいただきました。
 ●ネリヤのマークは、海・山・幸の象徴です。マークの中には、
 H O M E (我が家・ふるさと・在宅)が入っています。



健康長寿の「シマ」の地域包括ケアシステム

—鹿児島県奄美市—

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

徳田 英弘 (ファミリークリニック ネリヤ 院長)



(C) 南海日日新聞社

地域包括ケアシステムの目指すところは、「重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを、人生の最後まで続ける」ことといえます(図1)。また、地域包括ケアシステムの植木鉢モデルの鉢に相当する部分は「すまいとすまい方」となっています(図2)。「すまい」を辞書で引くと「住むこと。暮らし。生活。」とされています。つまり、すまいとは、単に場所を意味するものではなく、人としての生活を含むものと言えます。「住み慣れた地域」、「自分らしい暮らし」、「すまい」の原点は、人とのつながりや心地よさにあると言えるでしょう。つまり、「人とのつながりのある居心地のいい場所で暮らしていけること」が地域包括ケアシステムの目指しているものと言えます。

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築**を実現していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。**

地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。

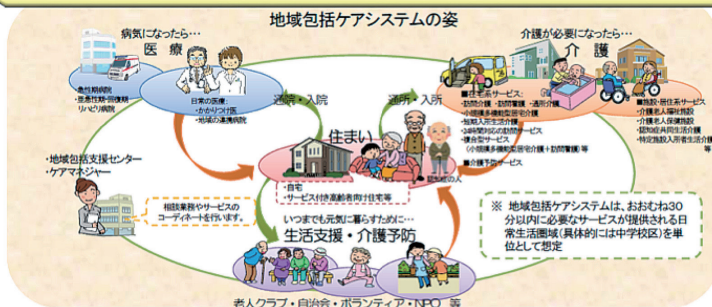


図1 地域包括ケアシステム

また、ひとりひとりの健康寿命の延伸のために、サルコペニア(加齢による筋肉量の減少)やフレイル(虚弱)を予防していくことが重要とされています。そして、フレイルなどを予防する上での三本柱とされているのが、「栄養、身体活動、社会参加」です(図3)。社会参加については、職域や趣味の集まりを通してのものも重要ですが、地域行事への参加などを通して、そこに集う人々同士の思いやりを持ったつながりを築いていくことにも大きな意味があります。こういったことも地域包括ケアシステムの目指す一つの側面と言えるでしょう。



図2 地域包括ケアシステムの植木鉢

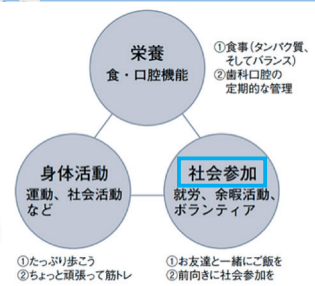


図3 フレイル予防の3本柱

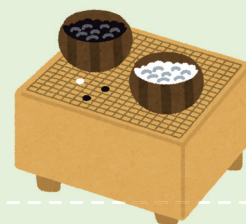
奄美や沖縄で『シマ』という言葉の意味するところは、地理的な島ではなく、地域社会であり、ふるさとでもあります。つまり、『シマ』は健康長寿社会の基盤となる「人と人のつながりのある地域社会」であると言えます。『シマ』の互助の精神は「結(ゆい)」として、今も脈々と引き継がれています。「結」の精神を保ち、養っていくことが、地域の健康寿命の延伸、健やかなシマ作りのために欠かせないことと言えます。奄美・琉球の世界自然遺産登録は、残念ながら延期となりましたが、奄美・琉球は世界に誇る長寿の島でもあります。先人が築いてきた健康長寿の『シマ』の文化を守り、発展させていくことが、在宅ケアに関わるものの大きな喜びでもあり、地域包括ケアシステムの目指すものといっても過言ではないでしょう。また、これは奄美に限らず、日本中のあらゆる離島・へき地、小規模都市などに共通する優位性であり、課題でもあると思います。

そうはいっても、「地域の核となる人や場」がなければ、地域包括ケアシステムは進みません。私どもの法人は、こういった活動がまだまだ不十分ですが、ご家族をお看取りされた方々や関係事業所、そして、町内の方々をご招待してバーベキューを毎年行なっています。在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークの事業所は、それぞれの地域の核となる人や場の宝庫であると思います。今年の全国の集いin大阪でも多くの学びを得たいと思います。みなさん、よろしくお願いします。

次回は栃木県 特定非営利活動法人 ゆいの里 飯島 恵子 さんをお願いする事になっています。(徳田 英弘)

私の
こだわり

趣味を持とう



津森 孝生
津森医院 院長
(大阪府東大阪市)

東大阪市で医院を開業して30年になりますが、あっという間に時間が過ぎていった感じがします。卒後、開院するまでの15年間を大阪大学第1外科で過ごし、毎日、手術に明け暮れていた頃を、時々懐かしく思い出すこの頃です。開業当初は自信もなく、先行き不安な気持ちでいっぱいでしたが、日常診療は医師会の役員などの雑務をこなしている間に、地域にとってかかりつけ医の重要性を認識し、往診なども始めるようになりました。往診患者が増えるにつれ、在宅医療の必要性も痛感しました。

在宅医療は単独で患者様を支える事は非常に難しく、訪問看護師などと協力しながら支えあいをする必要があります。特にターミナル患者様の看取りに関しては、医師1人で24時間、365日見守ることは到底不可能に近く、看護師、ケアマネージャー、多種のサービス事業所の方々と共に、家庭での終末医療のQOLを考えながら支えなければいけないと考えております。

今後は、今回の診療報酬改定で認められた「かかりつけ医」同士が協力し、チーム医療が出来るようになれば理想と考えております。

地域医師会会長として現在、東大阪市よりの地域包括ケア体制の確立と推進に向けた在宅医療コーディネータ事業、医療・介護ICT事業などを診療所と病院、行政、介護支援専門員、地域包括支援センター、介護サービス事業所と一体となり、多職種協働システムの構築、医・介連携に向けて、協調して取り組んでおります。

さらに在宅医療実地研修、緩和ケア研修などを積極的に行い、昨年の大阪府医師会医学学会総会で「在宅医療における多職種連携へのICT活用」を担当理事が発表しております。平成29年9月には「介護保険総合事業と認知症」のテーマで市民シンポジウムを開催し、会場は250人の市民で満杯となりました。福祉部課長、医師会理事、ケアプランセンター管理者らによる総合事業、認知症初期集中支援

チームの説明、認知症予防、認知症の方の在宅生活を地域で支えるポイントなどの講演の後、女優の秋川リサさんの軽妙なトークで自身の認知症の母親の介護体験から、見守る介護、頑張りすぎない介護についてユーモアを交えて話され、誰もが心を打たれる素晴らしい内容で好評でした。

座右の銘は**小異を捨てて大同に立つ**で、小さな感情に左右される事なく、大きな気持ちで物事を捉え、現実に対応することを目標としております。

趣味は囲碁、テニス、ゴルフ、スキーと広く浅くの立場ですが、身体を動かすことが大好きで、じっとしている時間が少なく、常にフットワークを軽くをモットーとし、健康寿命の増進、肥満防止の為に努力していましたが、3年前から脊柱管狭窄症にて下肢の痺れ、疼痛がひどくなり、内視鏡手術を受け症状はかなり緩和しました。

しかしこれまでのようにアクティブに動き回ることが出来なくなり、囲碁に没頭するようになり、いろんな大会にも出場し、関西棋院より名誉6段の免状を頂いております。最近あまり出かけて打つ時間も制約され、実力はどんどん落ちている様に思いますが、週に1～2度は梅田にある囲碁サロン爛柯や日本棋院・関西総本部に通い、インストラクターの先生の指導碁で昔話をしながら打つのが、唯一の楽しみとなっております。

本年1月6日(土)には東大阪名誉市民でもあり、羽生将棋永世名人と共に国民栄誉賞を受けた囲碁の井山七冠を祝う新春囲碁フェスティバル・井山裕太杯に参加いたしました。その中で史上最年少プロになるのは時間の問題と言われている小学校4年(9才)の可愛いお嬢さんが出場しており、小学校上級の部で優勝しました。今後はレベルの高い韓国にあるプロ棋士の卵が競うソウルの有名道場に通り始めるとのこと。又、東大阪はラグビーの町でございます。現在競技場となる花園スタジアムの改修が急ピッチで進められておりますが、2019年度の東大阪市内でのラグビーワールドカップでの地元開催にも地域医師会として協力したいと考えております。

医療法人孝生会 津森医院
内科・整形外科・外科・リハビリ科
〒578-0935 大阪府東大阪市若江東町4丁目2-5
TEL 06-6729-6020
近鉄奈良線 若江岩田駅 徒歩15分
<http://www.dr-tumori.net/>

理事会報告

第4回理事会

開催日時：2018年5月20日(日) 9:00～11:40

開催場所：貸会議室プラザ八重洲北口

出席理事：秋山 由美子、石田 一美、苛原 実、大石 佳能子、大川 延矢、大澤 誠、岡崎 和佳子、小倉 和也、金井 秀樹、
桑原 由次、小山 亨、中嶋 啓子、中嶋 久矩、畑 恒土、福田 善晴、吉永 隆行 (敬称略)

欠席理事：青木 佳之、太田 秀樹、沖倉 紅児、金田 弘子、黒岩 卓夫、多胡 光宗、長 純一、長縄 伸幸、西嶋 公子、
新田 國夫、萩田 均司、三嶋 泰之、宮坂 圭一、村山 善紀、森本 益雄 (敬称略)



第4回理事会の様子

大阪大会に向けた報告、協力についての確認などが行われました。

◎大阪ブレ大会終了報告 (P8 に掲載)

◎実践交流会座長の決定 (理事座長、大阪座長)、募集趣旨分の確認 (P2～P3 に掲載)

◎東京ブレ大会の告知・参加依頼

NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

第24回全国集いinOsaka2018
—ブレ東京大会—

外国人技能実習制度の
光と影

2018年
日時 8月25日(土) 14:00-16:50 (受付13:30)

会場：TKP東京駅前カンファレンスセンター
(東京都中央区八重洲1-5-20)

参加費：無料 (定員100名)

基調講演
14:05～14:55
「日本の医療・介護を海外に、海外人材を日本に」
—ビジョンと課題—
座長：三嶋泰之 (さくら風訪問診療所 院長)
演者：木石佳能子
(内閣官房 国際・アジア健康福祉協議会事務局)

シンポジウム
15:00～16:40
座長：苛原実
「台湾の外国人労働者の実態と課題」
パネリスト：呉淑惠 (中華民国老人福利推動聯盟 秘書長)
「技能実習制度の実態」
パネリスト：水野文雄 (国際医療介護交流センターの会理事)
「スカラシップ事業の現状」
パネリスト：浅沼裕子 (いちはら診療所 事務長)
「わが国の医療介護現場からの人手不足の実態」
パネリスト：岡崎和佳子 (大阪大会 大会長)

お問い合わせ
ブレ東京大会事務局 (担当：浅沼・田中)
TEL:047-347-2556

東京ブレ大会チラシ

◎その他、議題ではなかったのですが大川理事より発言があり、以下の冊子の紹介がありました。「口腔ケアや治療についての研究に関する冊子です。

重要な事なので、会員の皆様にも是非活用してほしいとの事でした」

(本冊子は・・・アップロードしています。こちらもご参照ください。)

ALSの方に読んでもらいたい!

「引き起こさない」「やわらげる」
口腔ケアを目指して

研究開発者：奈良先端科学技術大学院大学 松田 千寿 (山形) 東京歯科大学 松田 千寿 (山形) 東京歯科大学 松田 千寿 (山形)

口腔ケアは身近なケアですが、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の方の口腔ケアはほとんど知られていないため、口腔ケアの重要性、その重要性やケアも知られていない、整理した書籍はありませんでした。私たちは、この問題について長年取り組み、この書籍が認知症介護能力向上の助けをかり、冊子を作成しました。

まだまだ解決しないこともありますが、本書によって少しでもALSの方の参考になり、口腔のつらい症状を「引き起こさない」「やわらげる」一歩につながれば幸いです。

本冊子は、東京ケア推進プロジェクトのホームページからダウンロードできます。
東京ケア推進プロジェクト
<https://nambiyocare.jp/product/>
口腔ケア推進プロジェクトの東京ケア推進プロジェクトのホームページからダウンロードできます。
冊子と併せて、読者に届くようにします。

「引き起こさない」「やわらげる」口腔ケアを目指して

第24回 全国の集い in Osaka 2018 プレ大会 報告

秋の全国大会に向け、実行委員会、プレ大会が熱を帯びてきました。

そんな中、地元の大阪で去る6月10日(日)にプレ大会が開催されました。「地元で活躍されているメンバーによる」シンポジウムでその内容はやはり「大阪らしいテーマ」となっており、全国大会の機運を大いに盛り上げるプレ大会となりました。



NPO在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク

第24回 全国の集い in Osaka 2018 プレ大会

「ともに生きる」
「ともに暮らす」
「めっちゃええ明日」
～挑戦！ やるき ほんき げんき～

日時 2018年6月10日(日)
13:30～17:30 (開場: 13:00)

場所 HRCビル(大阪市港区波除4-1-37)
JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅4番出口より北東へ700m

参加費 無料

定員 100名(申し込み締め切り…5月末日)
詳細は裏面をご確認ください。

主催: 大阪地域医療ケア研究会

第24回 全国の集い in Osaka 2018実行委員会 報告

3月、5月に実行委員会が開かれました。

第4回

日時: 3月24日

場所: 天王寺区民センター 第2、3会議室

第5回

日時: 5月12日

場所: 天王寺区民センター 第2、3会議室

活動予定

第24回 全国の集い in Osaka 2018
平成30年9月23日～24日
場所: 大阪国際交流センター

第五回理事会
平成30年8月26日
場所: 東京

全国の集い2018 東京プレ大会
平成30年8月25日
場所: 東京

会員の方からの 書籍紹介

無理なく楽しむ在宅介護シリーズ⑥

知っておきたい
高齢者の食と栄養

一般財団法人医療経済研究・
社会保険福祉協会

中村 育子 著



風の萌

2018年7月20日発行(第042号)

頒 価: 1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL: 052-848-8800 FAX: 052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail: zenkokunet@home-care.ne.jp
〒458-0049 愛知県名古屋市天白区福池2-330-2 あいち診療所野並内

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

西日本豪雨で被害に会われた全ての皆様にお見舞いを申し上げます。

全国大会まで残り2ヶ月と少しくなりました。
実践交流会へ参加する方は、そろそろまとめの時期ではないでしょうか。
今年も、発表を楽しみにしております。

(東京事務局/犬童)